

各関係機関長 殿  
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

平成25年度農作物病害虫発生予察情報について

平成25年度農作物病害虫発生予報第3号を発表したので送付します。

平成25年度農作物病害虫発生予報第3号

平成25年5月31日  
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)  
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が0.5%、発病度が0.02)。なお、補植用置き苗でも発生を認めていない(過去10年間の発病率：平成14～15年は未確認、平成16年は4.8%、平成17～23は未確認、平成24年は9.1%)。
- (2) 5月24日発表の1ヶ月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高い、降水量は平年並または多い、日照時間は平年並または少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本田葉いもちの伝染源になるので、置き苗は補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生が認められたら直ちに液剤による防除を行なう。また、常発田では粒剤を予防散布する。

普通期水稻

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)  
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.1%、発病度が0.1)。なお、補植用置き苗でも発生を認めていない(過去10年間の発病率：平成14～23年は未確認、平成24年は14.3%)。
- (2) 5月24日発表の1ヶ月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高い、降水量は平年並または多い、日照時間は平年並または少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本田葉いもちの伝染源になるので、置き苗は補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生が認められたら直ちに液剤による防除を行なう。また、常発田では粒剤を予防散布する。

#### イネミズゾウムシ

##### 1) 予報内容

発生量   平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は 9.1%, 25株当たり成虫数は 0.09頭で平年(18.6%, 0.6頭)と比べてやや低めの発生である。
- (2) 5月24日発表の1ヶ月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高い、降水量は平年並または多い、日照時間は平年並または少ないと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 根腐しやすい水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け根を健全に保つ。

#### サツマイモ

##### アブラムシ類

##### 1) 予報内容

発生量   平年並(前年よりやや多い)で, 発生程度は「中」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が85.7%, 寄生株率が20.3%であり、ほぼ平年(65.1%, 17.8%)並の発生である。
- (2) 5月24日発表の1ヶ月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高い、降水量は平年並または多い、日照時間は平年並または少ないと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。

#### イモキバガ

##### 1) 予報内容

発生量   平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率14.0%, 被害葉率 0.2%)。
- (2) 5月24日発表の1ヶ月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高い、降水量は平年並または多い、日照時間は平年並または少ないと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 通常の発生であれば、特に防除は必要ない。多発した場合には、食葉性害虫等の防除に併せて薬剤を散布する。

#### ハダニ類

##### 1) 予報内容

発生量   平年並(前年よりやや多い)で, 発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が35.7%, 寄生葉率が 1.1%であり、ほぼ平年(26.5%, 5.0%)並の発生である。
- (2) 5月24日発表の1ヶ月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高い、降水量は平年並または多い、日照時間は平年並または少ないと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。

## II. 果樹 カンキツ

### ヤノネカイガラムシ

#### 1) 予報内容

発生時期 平年よりやや遅い(前年よりやや早い)

#### 2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場での第1世代幼虫の発生は5月18日に初確認された(平年：5月16日, 前年：5月21日)。

#### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤による防除適期は, IGR剤の場合には発生確認の10~15日後, 有機リン剤の場合には35~40日後の時期である。

### ミカンハダニ

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では, 旧葉での発生圃場率は25.0%, 寄生葉率は1.9%で, 平年(42.1%, 6.8%)よりやや低めの発生である。

(2) 5月24日発表の1ヶ月予報では, 平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高い, 降水量は平年並または多い, 日照時間は平年並または少ないと予測されており, やや発生抑制的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には, 充分な量の薬液を散布する。

(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので, 同一系統薬剤の連用を避ける。

## 果樹共通

### 果樹カメムシ類

#### 1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い(前年並)

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

(1) 今春の予察灯調査において, ツヤアオカメムシは勝浦町では平年(4月27日)より早い4月24日に, 上板町では平年(4月25日)より遅い5月13日に, それぞれ初誘殺を確認した。チャバネアオカメムシは勝浦町では平年(4月28日)より早い4月16日に, 上板町でも平年(4月27日)より早い4月24日にそれぞれ初誘殺を確認した。

(2) 5月24日発表の1ヶ月予報では, 平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高い, 降水量は平年並または多い, 日照時間は平年並または少ないと予測されており, やや発生抑制的な気象条件である。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝 浦 町					上 板 町				
	2013年	2012年	2011年	2010年	平 年	2013年	2012年	2011年	2010年	平 年
5.1	0	97	0	12	20	0	13	0	23	39
5.2	28	166	2	57	60	0	54	10	70	72
5.3	76	53	59	6	37	2	34	7	0	77
5.4	50	71	25	381	123	2	14	3	138	54
5.5	34	49	6	126	78	1	15	3	81	50
5.6		170	1	10	95		4	6	1	19
6.1		75	28	33	38		15	5	14	9

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝 浦 田丁					上 板 田丁				
	2013年	2012年	2011年	2010年	平 年	2013年	2012年	2011年	2010年	平 年
5.1	0	22	0	2	8	0	4	0	1	19
5.2	0	22	3	10	26	0	20	12	6	42
5.3	6	3	8	0	8	0	31	11	0	42
5.4	5	7	0	61	45	0	14	5	13	19
5.5	20	4	0	124	49	1	3	5	17	19
5.6		17	0	3	31		3	0	1	10
6.1		4	10	47	16		5	2	1	5

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

### Ⅲ. 野菜

#### 夏ネギ

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は100%, 葉の被害度は12.8であり、平年(82.8%, 7.6)に比べてやや高めの発生である。
- (2) 5月24日発表の1ヶ月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高い、降水量は平年並または多い、日照時間は平年並または少ないと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発し、残暑が続くと秋口にも発生が多くなる。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は77.8%, 葉の被害度は7.1であり、平年(47.4%, 2.2)に比べてやや高めの発生である。
- (2) 5月24日発表の1ヶ月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高い、降水量は平年並または多い、日照時間は平年並または少ないと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発する。

### Ⅳ. その他

- 1) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し, 周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは, 7日間以上止水して下さい。

**発生量の表示**

**発生程度 : 甚 > 多 > 中 > 少 > 無**

**発生量 : 多い > やや多い > 並 > やや少ない > 少ない**

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所

U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/boujyosyo/>

- 病虫害の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。